



国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



日大長野小学校児童への森林教室

みんなで森と木にふれ体験しよう



～ 森林環境教育を実施～



(P 2～3 に関連記事)

主 な 項 目	○ 森林教室を開催	P2～3
	○ 各地からのたより	P3～5
	○ シリーズ森林官からの便り	P5
	○ 風景紀行	P6

イラン・イスラム共和国の 研修生を受け入れ

【総務課】平成二十四年七月二十三日から二十五日まで、独立行政法人国際協力機構の実施する「イラン村落開発と組織能力開発コース」の研修生六名が当局を訪れました。

この研修は、「イラン・イスラム共和国参加型・森林草地管理プロジェクト」に係るカウンターパートに日本の森林行政の知見を深め、帰国後の事業実施をより円滑にするため、我が国の森林行政、住民参加などによる森林・草地保全管理への取り組み、荒廃森林の復旧技術等についての講義や現地視察を行うものです。



鈴木局長を表敬する一行

機関の職員で、リーダーはイラン国森林・牧草地・流域管理機構の副局長（林野庁森林整備部長に相当）パルビズ・ガルシヤスビさんです。

研修生は鈴木局長を表敬した後、早速研修（講義）に移り、竹内企画調整室長からの中部森林管理局の組織、事業概要等の説明を皮切りに、二日目の午前中まで森林計画制度、国有林野管理手法、造林事業、生産販売事業、治山・林道事業等についてそれぞれの担当課長等から説明。研修生は各課長からの説明に真剣に耳を傾け、更新における植栽樹種・本数、事業評価制度の手法といったことなどの質問も多く出されていました。

二日目の午後は、北信署管内の素材生産現場、戸隠自然休養林の現地視察へ出かけ、嵯峨北信署長の案内で高性能林業機械を使った間伐材の搬出作業や森林レクリエーションの実情について見学しました。

最終日となった三日目は中信署管内を訪れ、下堂中信署長から管内概要の説明を行い、その中で研修生からは、国有林職員の昇進の仕組みや待遇といった質問もあり、イラン林野庁の幹部らしい質問と納得する場面もありました。続いて梓川流域の治山工事（災害復旧）実施箇所等の現地視察へ出かけ、ワラビ沢の復旧治山工事実施箇所では、金井治山課長が災害発生状況、災害復旧工事の概要等の説明を行いました。イランで治山業務を



治山工事实施箇所を視察

担当している研修生は工事概要の説明に目を輝かせ、技術的な質問も積極的に行っていました。

その後、最後の視察地である上高地へ移動し、森林の利用実態と境界管理手法を確認し、三日間の研修カリキュラムを終えました。

国有林内での研修後、引き続き長野県の民有林行政について研修が実施されるとのことですが、それらと併せ三日間の研修内容がイラン・イスラム共和国の森林行政の発展に活かされるよう願っています。

森林教室を開催

【指導普及課】梅雨も明けた七月二十三日、長野日本大学学園長野小学校の

一・二年生六十九名を対象に、長野市飯綱高原で森林教室を開催しました。

学校側からの要請を受けて、一・二年

生混合の六班構成で間伐作業と木工教室に分かれて体験活動を行い、間伐作業では、はじめに森林の働きや間伐の大切さを学び、引き続き自然観察を行って体を切り倒しました。大きなノコギリを手に最初は思うように引けず苦労しつつも、職員の指導のもと交代しながら力を合わせて追いつきを切り進め、自分よりは



大きなノコギリを使って間伐体験



好きな模様を描いてペンダント作り

るかに大きいカラマツが倒れた際は、その迫力と達成感で大きな歓声に包まれました。

また、木工教室では、輪切りの板を使ったペンダント作りと、木の枝を使った鉛筆・モックン人形作りのほか、丸太切り体験を行いました。カラーペンや小さな木のパーツを手にとり、思い思いの作品作りに熱心に取り組み、子どもならではの創造力あふれた作品が次々とできあがり、友達同士で見せ合ったりするなど、普段体験できないひとときに子どもたちも満足した様子でした。

長野小学校では貴重な植物の保護や、野生鳥獣との関わりなど学校教育の中で既に取り組まれています。今回の体験活動が学校での森林環境教育の一助につながればと思います。

第五十一回高山植物等保護

対策協議会総会を開催

〔国有林野管理課〕七月十三日、中部森林管理局大会議室において、平成二十四年度「高山植物等保護対策協議会」(高植協)の総会を開催しました。

高植協は、長野県内の国有林並びに民有林における高山植物等の保護と地域内の美化を目的に、環境省、長野県、警察、中部森林管理局の行政機関や報道、交通、教育、観光、山岳等の関係



高植協総会の様子

団体で構成されています。

総会には、長野県山岳協会や長野県自然保護連盟など二十四名が出席し平成二十三年度事業、平成二十四年度事業計画等を提案し審議しました。

五地区(北信、中信、東信、南信、木曾)の協議会からの報告では、平成二十三年度の違反に対する指導件数は、高山植物無許可採取、踏み荒らし等、一八五三件と前年比一〇七割で、かつては減少傾向で推移してきましたが最近二年は増加傾向にあります。これは、登山ブームによる入り込み者の増加もありますが、一人用テントの増加により、野営禁止場所での野営、写真撮影のため登山道を逸脱するなどのルールやマナーの不知による違反が大きな要因となっています。

また、南アルプスを始め各地においてニホンジカ等による高山植物の食害・踏み荒らしが問題になっており、広範な会員を有する協議会が各種調査結果をデータベース化し公表していくとの取り組みについて提起があり、総会で了承されました。

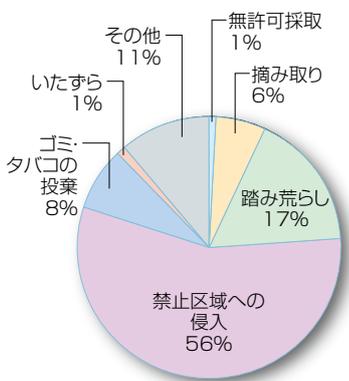
総会では、長野県から「生物多様性長野県戦略」環境省長野自然環境事務所からは「中部山岳国立公園野生鳥獣対策について」中部森林管理局からは「ニホンジカ被害対策について」報告がされました。

平成二十四年度の事業計画として、
一 高山植物等の保護思想の高揚
二 高山帯へのペットの持ち込み自粛に対する指導

三 保護パトロール強化及び強化週間の実施
四 野生獣による植物の食害対策の実施

などに取り組むこととし総会は終了しました。

平成23年度指導件数内訳



各機関からの報告

各地からのたより

ボランティア技術者の指導による 高校生の木道整備

〔南信署〕南アルプス北端に位置する入笠山の大阿原湿原は本州最南端の高層湿原であり、貴重な自然が残る人気の植物観察地です。

昭和四十年代に当署職員が湿原周囲へ柵や木道の設置を行うなど自然保護活動を開始し、その後、上伊那農業高等学校から、生徒の実習を行いたいという要望があり、平成十六年度から高校生による木道整備を実施してきました。

今年度の作業は板の張替えの他、基礎部分の腐朽が進行しているため、基礎の修繕工事(延長六十二メートル)を行いました。

また、初めての試みとして、当署管内で土木工事を請負っている長野林業土木

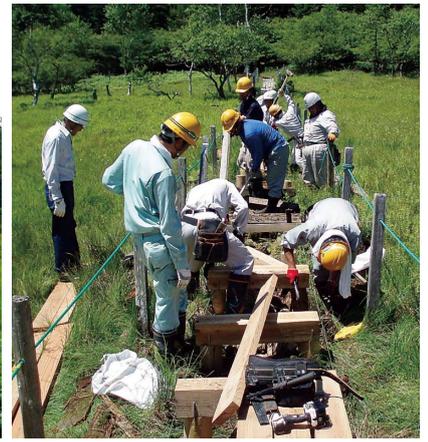
協会天竜支部の会員に、ボランティア活動の一環として協力していただきました。

八月三日（金）に事前準備として、署職員、グリーンサポータースタッフ及び協会員など総勢約二十名が炎天下の中、一日を掛け、木道の基礎杭や桁の設置を行いました。

本番当日の八月六日（月）は、朝方まで強い雨が降り実施が危ぶまれましたが、雨も上がり曇空の下、協会員の指導



高校生による木道整備の様子



ボランティアによる木道の基礎工事

により、生徒は電動ドライバーを使った板の打ち付け作業の他、設置のための資材の運び込みから設置後の廃材の後片付けまで実施しました。

始めは慣れない作業に戸惑っている様子でしたが、作業方法が分かるにつれ「楽しい」と声をあげる生徒もいました。

なお、作業の専門家である林業土木協会に協力していただき、当署はもとより学校にとっても今まで以上に充実したイベントになりました。

協会からは、来年以降も参加していきたいという意見をいただいているので、今年の反省点を活かし、更に発展させていきたいと考えています。

乗鞍岳で

高山植物保護合同パトロール

「飛騨署」八月八日、飛騨署が主催となつて中信署、環境省、岐阜県、長野県、高山警察署及び乗鞍に関わる各事業者らの合同による平成二十四年の合同パ



開会式の様子



魔王岳コースのパトロール

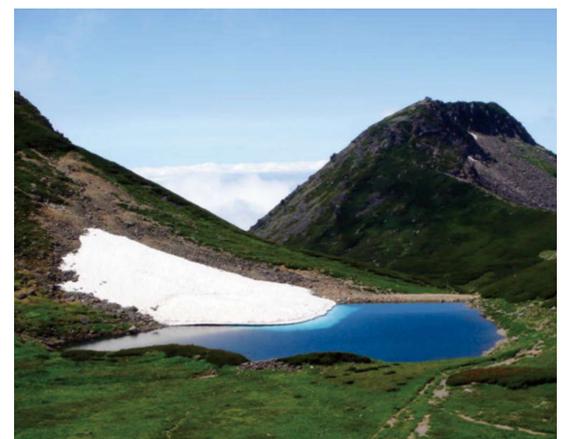
トロールを行いました。

このパトロールの目的は、訪れた人達に高山植物の保護に関する呼び掛けやマナー違反者への注意・指導を行うほか、タバコの吸い殻等のゴミを回収し、乗鞍岳の貴重な自然を後世に残すことと、美しい景観を多くのの人に楽しんでもらうことにあります。

当署の記録によれば昭和四十八年の乗鞍スカイラインが開通した翌年に乗鞍地区保護管理協議会を設立し、旧高山営林署、旧松本営林署及び乗鞍地区保護管理協議会の三者による「公開取り締まり」がはじまりのようです。

その後、高山警察署、豊科警察署、岐阜・長野の両県及び観光協議会等が加わって昭和五十六年から「合同パトロール」の名称に代わり、今年で三十二年目となりました。

このパトロールは、飛騨署と中信署が中心となつて一年毎に事務局を交代する



不消ヶ池

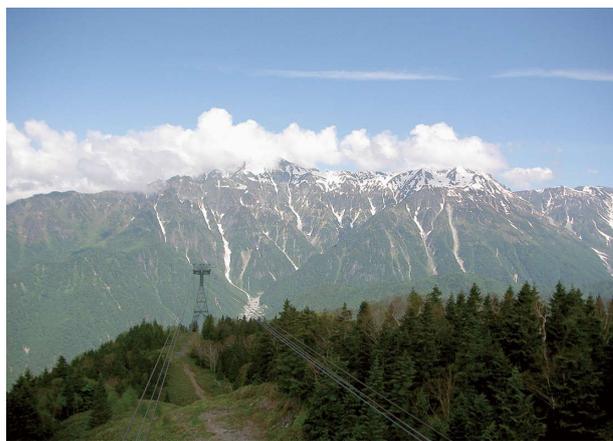
当番制になっており、今年は飛騨署の当番でした。

清水署長の挨拶の後、荒井業務第一課長からパトロールの実施方法や終了時間等の説明を受け、当日集まった二十五団体四十四名は、各班長の指示に従って「剣ヶ峰」、「富士見岳・摩利支天岳」、「鶴ヶ池・花畑・不消ヶ池」、「大雪溪・肩の小屋」、「魔王岳・桔梗ヶ原」の五班編成でパトロールを開始しました。

乗鞍岳一帯は、普段は国有林のGSS（グリーン・サポーター・スタッフ）を始め乗鞍美化の会等の関係者らによって保護活動が行われていますが、毎年、夏山最盛期を迎えて観光客や登山者が急増するこの時期に併せて合同パトロールを行っています。

当日は、乗鞍本宮の例祭と重なつて家族連れやツアー客、学校関係の研修等で賑わっていました。

午後二時三十分、曇平にある集合場所



笠ヶ岳方面を望む

「飛騨署 柘尾森林事務所」

山本武郎 森林官



閉会に当たり、中信署の古畑大野川森林官が、下堂署長に代わって来年度の当番署としてパトロールへの協力を要請し解散しました。

報告されましたが、例年に比べてゴミの量が少なく、高山植物を間近で撮影しようとして歩道から外れていたなどで注意したほかに目立った違反もなく、私たちの取り組みが浸透し、入山者のマナーも少しずつ改善されてきていることを実感しました。

柘尾森林事務所は、岐阜県高山市奥飛騨温泉郷柘尾に所在し、管内は北アルプス、飛騨山脈の一端をなす笠ヶ岳、抜戸岳、弓折岳、樺沢岳、槍・穂高連峰、焼岳、乗鞍岳を峰に、岐阜県側のエリアを管轄しており、遠望するその姿は壮大で、アルピニスト達を魅了してやみません。

また、部内の平湯国有林には、巨樹・巨木百選に選ばれた大ネズコの木がそびえ立ち、地域の方からも親しまれています。

当事務所は、「奥飛騨温泉郷」という住所のとおり柘尾温泉街の一角に位置し、周辺は温泉宿が立ち並ぶ観光地です。ここ奥飛騨温泉郷は、柘尾温泉のほかに、平湯、福地、新平湯、新穂高といった日本有数の温泉街が北アルプスの山麓に広がり、五月の連休から夏場にかけて登山客をはじめ多くの観光客で賑わいます。

部内には、日本の屋根と呼ばれる山岳地帯に国有林が位置することから、当事務所の業務は造林や生産といった事業よりも、約九十件の貸付地の巡視、管理業務等が主体となります。

七月、稜線に遅くまで残っていた雪が融けてなくなり始めると、六月にはまばらだった登山者達の姿も徐々に増えてきます。それに合わせて山小屋も営業を始め、柘尾森林事務所の業務も最盛期を迎えます。今年はシーズン中に遠い箇所



森林教室を行う山本森林官

は一泊二日程度の計画をたて、山小屋（貸付地）を巡回する予定を立てています。

休日ともなると登山者が多くなるため、当事務所では土日を中心に、グリーンサポータースタッフ（GSS）と呼ばれる五名のパトロール員に国有林内の林道、登山道を巡視してもらい、植物の採取や自転車の乗り入れ禁止等の注意喚起を行っています。パトロール員は、北アルプスに関する知識や登山経験が豊富で、非常に頼りになる存在です。北アルプスに限らず、山に関する知識や技術は、本を読んで得るのもよいのですが、やはり経験豊富な人と一緒に歩いて見聞きすることが重要だと再認識させられます。

当事務所では、管理業務のほか、ふれあい業務も重要な業務となっており、年に四回、「遊々の森」の協定を締結した地元の小学校に対する森林教室を行っています。前述した平湯の大ネズコも

「遊々の森」の中にあり、教室ではできない森林散策や木工クラフトなどの体験をしてもらっています。

飛騨署では、旧営林署単位としたチーム編成をしており、各チームで連携して業務に取り組んでいます。例えば、収穫調査など人手を必要とする場合はチーム内でお互いに協力して行います。当森林事務所は、神岡チームに属し、ほかに神岡、双六、本郷森林事務所及び蒲田治山事業所がチームメンバーになっています。

この四月に当森林事務所の森林官として赴任したころは、部内の森林は一面の雪に覆われ、林道も通行できないような状況でしたが、夏を迎えていよいよ業務も本番となりました。再び雪に覆われるそれまでの期間、できるだけ多くの現場に足を運び、日々の業務に励みたいと思っています。



◎防災訓練

9月4日 局

◎名古屋シティ・フォレスト事業

9月8日 北信署管内

9月19日 東濃署管内

◎本庁実地監査

9月10日～13日 南木曾支署・局

◎木曾駒ヶ岳植生復元

9月12日 木曾駒ヶ岳



キャンプ場内のバンガロー

夕森公園 (川上国有林)

〔東濃署〕 岐阜県中津川市川上、川上国有林の入り口に夕森公園があり、裏木曾県立自然公園に指定されています。
夕森公園の一部は川上国有林(一、二

ふう けい き こう
風景紀行
夕森公園
88
東濃署
(各署の景勝地等を紹介)



白龍伝説のある龍神の滝

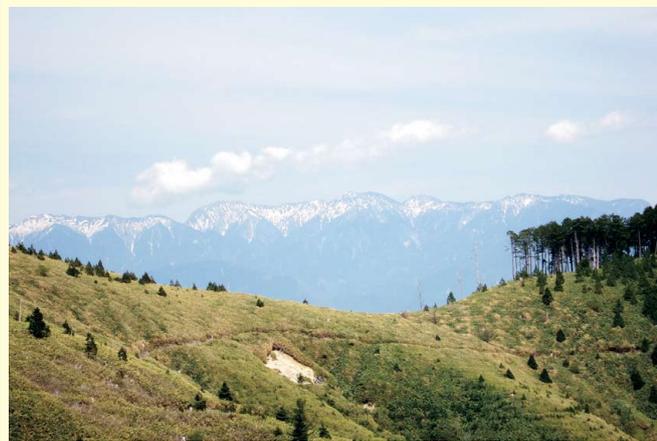
四一(釜)内にあり、レクリエーションの森に指定されています。

この公園の中にはキャンプ場があり、五月から十一月にかけて営業しています。高原の静けさと川の流れとアウトドアライフが楽しめる場所として、年間七、八千人の宿泊者があります。また、奥三界岳を源流とする谷川が、数多くの滝をつくり川上川となって流れてきます。

夕森公園から奥三界岳へと続く登山道とその周辺は、滝巡りには絶好のコースです。

春の新緑から始まり秋の紅葉にかけ年間三万人ほどの来訪者があります。

キャンプ場の散策道にある夕森かけ橋を渡りますと、まず目に飛び込むのは竜



奥三界岳登山道から中央アルプスを望む

神の滝、離れていても身体にしぶきが降り注いでくるほど豪快な勢いで流れ落ちるこの滝は、その昔、この滝に住む白龍が突然姿を現し天まで駆けのぼったという伝説があります。「ゴー、ゴー」、周囲の音を打ち消すほどの滝の音は、確かに竜の鳴き声のように聞こえます。
奥三界岳の源流へさかのぼれば、亡鱗の滝、銅穴の滝、アゼ滝、一つ滝とまだまだ滝がいっぱいあり、どの滝も水量が多く迫力満点です。
地元の川上まちづくり推進協議会が主となり、春には龍神神社の大祭と夕森公園山開き安全祈願祭・植樹祭が行われ、夏には夏の夕森もみじまつり、秋には夕森もみじまつりが行われ、県内外から多

くのお客さんが楽しみに来訪しています。

◆所在地

岐阜県中津川市川上

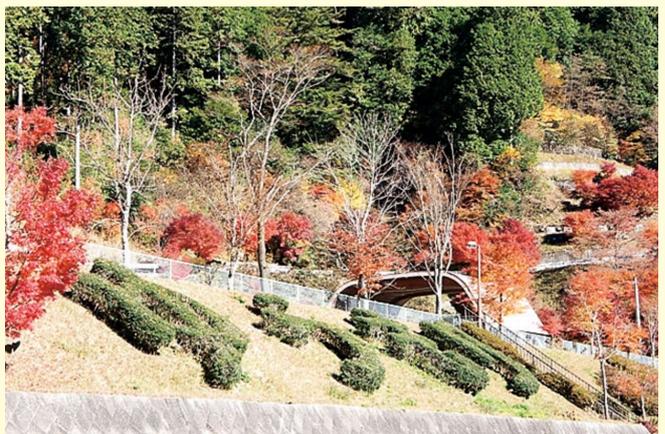
◆アクセス

〔公共交通機関〕

J R 中央本線坂下駅から濃飛バス「夕森公園」行きで「夕森公園口」バス停で下車。

〔自家用車〕

中央自動車道中津川IC下車国道一九号を塩尻方面へ約一五キロ北上、弥栄橋交差点を左折し国道二五六号経由で県道三号線を約七キロ北上、川上大橋手前を県道四一一号線に右折し約四キロ北上。



秋の夕森公園